

## 於保多神社

当社の創始は、弘長三年で、菅原道真を祭り、後に富山藩祖前田利次、二代藩主正甫、十代藩主利保を合祀した。

通称柳町天満宮と言ひ、古くから地方住民の信仰があつて、明治六年に於保多神社と改称し、同九年には崇社となる。

宝物には菅原道真公羊三社託宣書、菅公渡唐絵像、及び一条兼良羊の桃花老人羊讃等がある。

境内には、二代藩主前田正甫の铸造した時鐘で作った正甫公領徳碑や、明治十年西南役で戦没した旧富山藩士の偉功を表彰した西南役記念碑、及び富山藩の子弟の教育に功勞のあつた小西有実、有義、岡田英陽の記念碑などがある。





































































大伴家持卿歌碑

売比何の  
早き瀬ごとに  
八十伴の男は  
鶴川立ちけり  
萬々々々



売比河の

早き瀬ごとに

篝々志

八十伴の男は

鷄川立ちけり

萬葉集卷一七四〇二三



















### 文獻 真言宗鶴坂山鶴坂寺跡

中古鶴坂寺は名神大社鶴坂神社鎮護のため神宮寺として創建せられ島黒瀬鶴坂辺りを起点として西方方下野久郷辺りへ扇状形に展開した広大な地域に七堂伽藍二十四坊が連なり歴代住僧が別当として多くの社僧を従えて朝夕神前に読經奉仕していたが降つて天正年間上杉謙信の兵火又たびたび神通川転流の災に遭い次第に坊舎は離散し衰退してゆき明治三年富山藩令寺令の強行により鶴坂寺は七十五世鶴坂泰胤を以つて全く廃絶するに至つた。  
就中源頼朝は本堂を再建し、十二ヶ村を社領に付した。

鶴坂・鶴坂新・島黒瀬・分田・羽根・羽根新・有沢・高田・高田新・高田・下野・久郷

二十四坊の中には

順正寺(宮・布瀬) 中堂寺(掃・安田)  
徳常院(射・三十三村) 光尊寺(射・西高木)  
五輪塔・板碑・梵字碑・鎌倉・室町期  
墓碑・中興関山・阿闍梨権僧都法印祐尊

(元禄西子年三月二十日)

当寺七十四世法印親清大和尚(元治元年七月二日)

















鶏坂神社と神馬の由来  
 当社には平安朝から日本五大奇祭の一つ櫛祭尻  
 打ち祭が行われ婦女の貞操を戒しめる祭として  
 全国に知られていた。これは祭礼の日神官が  
 参拝の婦女に男を知った数を問ひ、その数ほど  
 竜眠木の枝で女の尻を打つたもので女がもし数  
 をかくすと直ちに神罰を受けるものとされて  
 いた。維新のとき廃止され女馬が代用されて  
 縁組安産増産を願う崇敬者から神馬として  
 あがめられていた。此度当社合祀七十周年に  
 当り遺風をしのび併せて、氏子崇敬者の  
 家内安全子孫繁栄の起願を込め、これを  
 奉納者一同  
 建之する























































